

三次神経内科クリニック 花の里

Vol. 8

2017. 春号

— ご挨拶 医療法人微風会・社会福祉法人慈照会 理事長 和泉 唯信 —

『BPSD』

少しずつ春の気配を感じるようになってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。認知症の症状について少し説明させていただきます。

認知症の症状は大きく2つに分かれます。ひとつは記憶障害、判断力低下といった認知機能そのものの低下によるものです。もうひとつは、かつては周辺症状ともよばれた徘徊、興奮といった症状です。これらは現在では認知症の行動・心理症状 (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) とよばれる BPSD と略されます。

記憶障害や判断力低下に留まっていればご家族の負担もさほどではないことが少なくありませんが、この BPSD が生じると一気にその精神的・肉体的負担は増加します。場合によっては同居が困難になる場合があります。この BPSD は認知症の自然経過の中で、でてくることもあります。何かをきっかけとして生じることもあります。きっかけとしては生活環境の変化、何らかの病気の合併、薬の影響が重要です。現在はなるべく施設ではなく、生まれ育った環境で生涯を全うしていただくという考えが大切になってきましたが、やはり慣れた場所の方が気持ちは落ち着くものです。認知症患者が不機嫌な理由が実は身体の不調の表れの場合があるのは知っておくべきでしょう。また安易に飲む場合が多い胃薬や痛み止めも BPSD のきっかけになり得ます。このような BPSD は確かに大変な症状なのですが、適切な対応・薬物でおさまることがあるので是非ご相談ください。

— ご挨拶 医療法人微風会 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 —

暖かくなり新緑も目にするようになってまいりました。皆さまも春を感じられていることと思います。

認知症に一番最初に気が付くのは本人とされています。周囲が気付くような段階ではかなり進んでいる可能性もあります。もの忘れが目立つようになったら、まずはかかりつけの先生に相談してみてください。かかりつけの先生が認知症の診断・治療をしてくださるようでしたら、そのまま治療をお願いしましょう。認知症のお薬は飲み薬や貼り薬がありますが、どれも特別な医療機関でないと処方できないものではありません。もし、かかりつけの先生では判断が難しいようでしたら、認知症疾患医療センターを紹介していただけてください。診断をさせていただき、治療方針をご提案した後にかかりつけの先生に再びご紹介します。また、認知症は薬だけでどうにかなるものではありません。本人の気持ちや生活の仕方、家族や周囲の方々の関わり方も大変大切になってきます。どうすればよりよい生活を送ることができるか、一緒になって考えていきたいと思えます。かかりつけの先生がいない場合は直接ご連絡いただいても結構です。他にも認知症について尋ねたいことや不安に思うことがあれば遠慮なくご相談ください。



各疾患と診断後の関わり方について



前回に引き続き、今回は前頭側頭型認知症（FTD）と脳血管性認知症（VaD）について、ケアのポイントをお話します。

前頭側頭型認知症（FTD）



脳の前頭・側頭に萎縮が起こります。記憶障害や妄想・幻覚等は少ないものの、集団生活に馴染めず怒りっぽいとかこだわりが強い一方で、同じ行動を繰り返したり物事に無関心かと思えば周囲の影響を受けやすい認知症です。以下、FTDとします。

一般的にアルツハイマー型は行動の背景にその人なりの理由があると言われていますが、FTDはどちらかと言えば理由というより“本能”で行動しているのかもしれませんが、

例えば、FTDの徘徊は「常同性周遊」と呼ばれ、毎日同じ時間に同じコースをひたすら歩き制止すると怒る。何かを目指して歩いているのではなく、歩かすには居られない状態となります。「止めたら怒るし言う事を聞いてくれないから。」と止めずにいると、踵などの疲労骨折を起こす場合があります。自分の意思ではなく“脳が歩け！歩け！”と言っている”イメージで働き掛けをしてみてください。単に制止するのではなく、周囲の影響を受けやすい特徴を生かして、本人が関心を持ちそうな事で“気をそらす”様な工夫も案外効果があります。

FTDの人は、甘い食べ物にこだわり易いので途中おやつ休憩に誘ったり、趣味の花を生けたり土いじりをしてもらったり・・・その人の好み・習癖などの情報もケアには必要です。常同行動を軌道修正する為に大切なことは、介護側も毎日同じ時間に同じ事を提供しなくてははいけません。本人の時刻表的な行動に困っているのであれば、日常生活に許容範囲な生活にどうすれば修正出来るのか。簡単な事ではありませんが、FTDに限らずケアを大変だ！とか面倒だ！とばかり思わずに“ケアを工夫する楽しさ”を探ってみませんか？

FTDは認知症の中でも対応が難しいと言われていますが、記憶が結構保たれている事を利用して一対一で馴染みの関係を築き仲良くなる事が可能です。（集団生活では混乱が強くなるのかも知れませんが）一旦信頼関係が築けるとその後のケアがやり易い場合が多いのもFTDの特徴です。認知症に限らず信頼関係はコミュニケーションの基本だと思います。

コミュニケーションが上手い人は認知症の人への関わりも上手いと思っているのは私だけでしょうか・・・些細な事で暴言暴力がでる事がありますが、腫れ物に触る様な対応ではなく根気強く声をかけてあげてください。イライラが募っているのかもしれませんが案外、どうして自分が腹を立てているのかがわかっていないのかも知れませんが

また、万引きなどの反社会的な行動もFTDには現れることがあります。警察沙汰になる

場合もありますが、病気のせいである可能性もあります。周囲の理解と認識が変われば本人の精神状態が穏やかな安定に繋がり、BPSDの軽減が期待されます。

FTDには他にも独特な症状があります。出てくる症状は個々で異なりますが、その特徴を利用したケアはFTDの場合は特に必要だと考えています。

脳血管性認知症 (VaD)



脳出血や脳梗塞等の発作後に後遺症として起こる認知症です。以下 VaD とします。ダメージを受けた場所や障害の程度によって出現する症状は異なるので、出来る事と出来ない事が比較的是っきりしています。判断力・記憶は割と保たれ生活可能な事が多い反面、感情の起伏が激しい・些細な事で泣いたり興奮することがあります。

麻痺などでADLが低下したり、言語障害がある場合は上手くコミュニケーション出来ず、イライラしたり気分が不安定になればボーッとしたりやる気がなくなります。そうすると日中の活動性が低下し夜間不眠の原因となったりします。また、段々出来ることが少なくなれば、外出も億劫になります。残された能力をどのように維持し生かすかは本人だけでなく、周囲の働き掛けが欠かせません。自分の身の回りの事は時間をかけても頑張ってみる・言葉が出なくても人と話をする・積極的に外出に誘ってみるなど日常生活の中で刺激を提供することは必要です。

アルツハイマー型に比べ進行は緩やかであるものの、加齢と共にリスクは高くなっていきます。認知症悪化予防のポイントは“再発作を繰り返さない事”であり、発作の原因要素をしっかりコントロールする事が重要です。

デイケアなどを利用しリハビリを兼ねて他者との関わりを持つ事も大切です。この様なサービスを嫌がる人は多いのですが、利用する事で気持ちが元気になる事だってあります。自分の体が不自由だと人との関わりに自信が持てなくなりますが、取りあえず家から出てみましょう。何もしなくても良いので人の声を聞いたり・動きを見たり・風を肌で感じたり・・・そんなさりげない日常の風景に触れる事は心のリハビリになります。

こうすれば上手く行くと行った正解はありませんが、だからこそケアの方法は色々あるのだと思います。「認知症ケアは病気の理解から」は本当にそうではありますが、人が人を支える事に於いて必要なのは何なのか？時には立ち止まって考えたいものです。

認知症の人への関わりについてシリーズでお話をさせていただきました。認知症には型があって各々特徴的な症状があります。その特徴をケアに生かしてみましょう。

認知症を全て一括りで考えていたのではケアの工夫が出来ないと思っています。

ありがとうございました。



三次神経内科クリニック花の里

看護師 武内

認知症医療連携協
議会を開催
しました

2016年12月1日(木)に福祉保健センター研修室にて認知症医療連携協議会(福祉部会)を開催いたしました。今回は行政・福祉の方を中心に参加いただき、事例検討をおこないました。

『訪問リハビリから見える在宅認知症高齢者の現状と問題点』と題しまして、訪問リハビリの作業療法士の視点における認知症高齢者の現状や課題、またご家族や地域との関わり

の中から考える課題について、検討をおこないました。

三次・庄原の各地域での認知症高齢者やご家族支援の取り組みの再確認をし、情報発信の方法についても議論し、各専門職、各立場でできること、連携していくことを再確認

認知症研修会
を開催
しました

2017年3月20日(祝日)に広島大学広仁会館にて三次神経内科クリニック花の里主催認知症研修会 日本早期認知症学会 春季ワークショップ2017(第1回 広島大会)を開催しました。日本早期認知症学会理事長、鎌ヶ谷総合病院難病脳内科 湯浅龍彦先生をはじめ、多くの先生方に出席いただくと共に、

様々な視点から認知症に関する貴重なご講演をしていただきました。

県内はもちろんですが、県外からも多くの方に参加していただきました。



認知症相談専用電話窓口を設置しております

【時間】9:00~12:00・14:00~17:00

(月~土 祝日・休診日を除く)

【電話】0120-870-318(相談窓口専用電話)



医療法人微風会
三次神経内科クリニック花の里
〒: 728-0013
広島県三次市十日市東4-3-10
TEL: (0824) 63-0330
FAX: (0824) 63-0331